

## 「天使のはたらき」

### ルカによる福音書1章26～38節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村 謙一

2018年度のクリスマスの準備として、私たちは今宵、幼少合同の点火式を守っています。今年も、クリスマス会、クリスマス礼拝、ページエントの季節となりました。クリスマスの準備が世界中の諸教会とキリスト教学校で進められています。本物に近いクリスマスは、教会のクリスマス礼拝とその後の教会のクリスマス行事に出る事です。その事をまずお勧め致します。実は、クリスマスは、救い主イエス様のお生まれを喜び、感謝し、祝う時なのですが、聖書をよく読みますと、天使たちも私たちと同様に忙しかった、ということが分かります。聖書に登場する天使たちはすべて「仕える霊」です。天使の働きは、神様のクリスマスの御業を支えます。私たちも、天使たちのように奉仕を持って神様にお仕えることがゆるされています。

さて、天使ガブリエルは、ダヴィデ家ヨセフの婚約者マリアに、次のように告げました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」ここでマリアが神様からいただいた「恵み」には、救い主イエス様の命が宿り生まれることだけでなく、イエス様を育てる、子育ての御業も含まれていました。この大役を果たすために神様は、名前も知られていない、弱い存在であったマリアを選ばれたのでした。聖書の神様は、人間を信頼され、育児が初めてのマリアとヨセフに、神の御子イエス様を託されました。クリスマスの聖書記事には、深い愛を持って、人間の子育てと教育の御業を特別な恵みを持って慈しまれる主なる神様が示されています。

さて、天使ガブリエルは、旧約聖書にある救い主についての預言のみ言葉を次のように告げました。「あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。」このお告げは、700年以上も前に預言されていたイザヤ書7章14節のみ言葉が実現し、生まれる救い主は、インマヌエル(神は我々と共におられる)と呼ばれ、神が人となるお方であることを示していました。このお方をイエスと名付けよとマリアは命じられたのでした。まだ結婚もしていない自分に子が宿るということが、マリアには理解できませんでした。しかし天使は答えました。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。神にできないことは何一つない。」ここで、天使ガブリエルは、聖霊という御霊なる神様の力によって、マリアに神の子イエス様が宿り誕生することを告げたのでした。遂に、父なる神様は、罪の世に神の子イエス様を送られ、十字架で命を献げさせ、復活させ、すべての人の罪を赦し天国へ導かれようと、救いの御計画を進められたのでした。

この時、マリアはまだ若かったので、天使のお告げの意味の全部は分かりませんでした。でも、マリアは、「わたしは主のはしためです。お言葉通り、この身になりますように。」と言って、天使のように主に仕える者として、祈ることができました。マリアは聖書のみ言葉が自分の人生に起こりますようにと信じて祈ったのでした。そして、イエス様も、聖書のみことばが、人生で実現することを信じて祈り、十字架

と復活の道を歩まれました。そして神様の罪の赦しと復活の希望が世界中の人々に与えられました。天使ガブリエルは大役を果たして去って行きましたが、私たちも天使のように神様の大切な御用に日々用いられ、祈りつつ神様と隣人に仕えて参りましょう。イエス様の救いの恵みの光が、皆様の心に輝きますように！祈ります。

天の父、宇宙を創造され、御子をこの世に遣わされた愛の神よ、点火式礼拝に心から感謝致します。マリアとヨセフが受けた子育ての恵みが、どうか、聖学院すべての学校の教育の御業に関わるご家庭に与えられますように、お願い致します。どうか、主よ、全ての人の罪を赦し救うために、十字架で死なれ復活された救い主イエス様を心にお迎えして、マリアのように聖書のみ言葉が実現する人生へと私たちをお導きください。今宵、イエス様の恵みの光が、私たちの心に輝き、天使のように神に仕える働きが強められますようお願い致します。

この祈り、十字架と復活の神の御子、主イエス・キリストの御名によって、御前にお献げ致します。

アーメン。

2018年11月22日(木)聖学院幼小合同点火式